

刊夕日一十

特に出して世費を縮ふ目的なりと面
 して右下長官來阪の機において
 各地よりの假覽團吸收に努むる
 勝三郎氏に内定せりと傳へらる
 (東京密報)

て商業上已むなく山東皮革又は
度の原皮を輸入して朝鮮産原皮の
源に充つるため内地に於て四千
の鐵道専賣行を全設し既に

が位に思つて居ると大變だ
送高山君。大

大正五年一月十日
京城日報社

銀行は普通銀行業務も確實親切に徹底扱申也





日入京以來本旅館の三階なる純
式客間に隣附つたスタール博士
其の後毎日、のやうに市中の見物と
類聚の研究材料蒐集に餘念がない

國今年五十七歳の

銅印があつて然も彫部には王宮の
根などに見る

國獸の形を彫刻し
たのが特にいふと思ふ、其れから
のきいたのは銀製の面である、あ

士は頭には白髪が見えるにも拘は
其精力は實に驚くべきもので毎
日米國へ送る新聞の原稿とす
て居る、歐術は市販第一のダ
は古き支那の周時代を思はするも
て非常な趣味がある、次に朝鮮
（ブラッシ）を買はうと思つたが
ツシは漸々日本内地のものと同
様になりつゝあるやうだ」と博士

又
シカゴユニオン紙へ送るのたがは
東海連五十三次の陸奥中では
を惜みて萬年筆を走らせて居た
は陸奥の元氣である、博士は十日
夕方、
蓮谷の朝鮮紙舗
面して又鍵牌「エルシヨイイ」頑
を研究したから朝鮮の謎（ミステク
キ）や風俗習慣を研究したいとい
を研究したから朝鮮の謎（ミステク

深山に朝鮮紙を購ひて求め旅宿の入居は、湯突圪から色紙で充溢になつ居た、而して鮮人の紙商から一々の名前を聴き記して居たが相繼ぎ

ニコ／＼しながら曰く「朝鮮の紙を指してこれらから色々な葉紙の古物を集めるのだと笑つた、其から

朝鮮右器時代の
ドルタンや又は古代の住民が兵隊を避けて山の上の生活を爲た跡を調べ

有名な事は豫て知つて居るが何れ
見ても非常に趣味がある、見給へ
の温文紙も

圖扇子に巻く紙も
白ぢやないか」と知々の通を伺
ふ

いといふ、又お札に就いては自分
友達のラムスンデンと云ふ人も却々
研究者であるがまだ、自分の方が
多く有つて居るといふ、態度を
心に物語つて居る間に博士は徐々

た時とは餘程變つたようである、
一市監正の爲め、到る處處に大通
が出来たのは全く見違へる程だが
これに今更見れば西大門は（取り退
られたやうである、これは明ゆる
た、見れば朱塗りの高牆には魚肉
フライと鰯の漬付けと味噌合の叩
汁、鰯で付てゐる、博士はこれ
前に鑑見て巧みに香を融かした
ら先づ鰯の刺身を出され油につけ


鯨の進歩
 日發達を^{ひはつたつ}示す^{しす}證左^{しやうさ}
 も實はれようが拙者に^{しやくしやに}とつては門
 近くにあつた大好きな^{おほな}骨董師^{ぼんとし}が居な
 したつたが爲念である。拙者はま
 陳昭阿^{ちんせうあ}へも却つて珍珠^{しんしゆ}との仰せ
 飯は毎時^{まいじ}で有一杯^{いっぱい}限りとの事でも
 がお蔭には少な
 目お茶演も播さ^は込^こ
 まれる試に日本料理では何が^{なにが}お嗜^{しやう}

野猪人を咬む

通走し来るを以て野人は猪作用
鐵を振上げ何んの已れめ一打に撲
通の李玉賦美術製作所を覗い
の種類であつた、昨し今でも美味
かど同へは「拙者のこれまで咬
本料理は殆んど記憶し切れぬ習
の種類であつた、昨し今でも美味
かど同へは「拙者のこれまで咬
本料理は殆んど記憶し切れぬ習

門司港内にて潮流の爲め
 十一日午前九時二十分頃門司港内
 第二區にて番船嘉義丸
 衝突し立神丸は大龜裂
 生じて浸水したれば
 三千三百三十二噸並船中

下手より入港し來りたる郵船立神
丸(三千七噸)は嘉茂丸を避
けて迂回せんとするも潮流のため
あり兩船共に海難し居り(船破)


巴里明丸 くるくるなる

入日神戶入港の熱田丸船客場渡商店 大尉の飛行は頗る不評判にて敵
 孟買支店長安川政太郎氏の巴里土産の毒と云ふべく又巴里は昨今非

劇場に盛な入場者 持てる遊野界

に日本飛行會社より作の洋品を計ら
らく「自分は英佛の棉花狀を觀察
のため昨昨十一月中旬倫敦を經て巴
里に至りたるが

日本飛行家滋野男

の弗蘭西美人に結縁されること驚く

斯くなり

パイは十時限りに

戸を閉ざすなど劇場は盛んにして
女を引連れて見物をなすなど職
士思ふれ弗蘭西美人の意氣風

パン、シゲノの名を知らざるものなく、異郷は常に魔術、大魔の正服、然かも儀式の最も派出に現せられたる水色の上衣に燃えたるやうな赤

しもんしゅうきぼつ

神出鬼没

地中海の潜航

ズボンを穿て、戰線に立ちて幾多の功
章に依り、大尉となつたものを、胸にズ
ラリと輝かせる劇場ならに、入場するに
忽ち巴里美人に包圍せられ花取しき
令嬢から強き握手

豐作氏は來訪の記者に語つて曰

熱田丸は無事歸
艦の途に就きたる郵船歐洲
熱田丸は無事歸港に突如として
午前七時餘分に入港せる大船長
豐作氏は來訪の記者に語つて曰


を挑まれ花束を降流がれるなどその醜禍の程は巴里之子が羨望の的となり居れり一時氣遣はれ居たる病乞も吾が派遣赤十字病院の手厚き介抱に依りて余なし飛行機學校の教授と

獨逸の潛航艇は地中海の全體に
て神出鬼沒様々なきため

異常に危険なる
のみならず英國海軍の根據地と
するマルタ島及び佛蘭西海軍の主

紙幣を携へて集まり來りて、漸く右野
邊前北道警務部にて
寄を加へたるが、尙商人は右足之圖
を以て、
なり御國軍隊より支給せらるゝ給料
一箇月九百法なれば繁澤の生活を
まし得べきと其後來りたる調本機關
集中せりと云ふデブラルターに
まで海上危險にしてマルタ附近
最も危なきが處なるを以て如何

せられ居りこの
つゝ危險地帯を迫れたるは天祐なり
關無線電信を聞き
本船の倫敦出帆前までは日本各船の
爲め外人の受より倫敦より五十名
外四名のもの明治四十三年十
勸産を目的とする勸業會社
を金で資本金二千萬圓とし株
十萬株に於て加藤は創立委員
三は創立委員となり株式


五十萬圓

マセニ云ふより三十名の乗客を
 見るに限り、農材、雜貨の荷物も充分積
 込みを付たり 天辰支店

著手したるに翌年二月の十五日
 四千石の申込である。是迄の
 株の騰貴者なきに、當か、總代理
 あるもの、如く吹聴し各株主
 第一回が拂込を請來したり
 之に應じたるは六千三百餘


鬼權の遺産争ひ
大阪府下東成郡豐橋大字稻野町の
富家故木村權右衛門氏の次男作蔵、
三男作三郎並に妻等が先代の遺産
を所持し居り互に血で血を洗ひ
ぎざれば随つて會社は不成立
べかりしに彼等は他の四名と
形を濫登して總株の引受を爲
すに當り、計四萬四千圓の創立
總會の立替金創立委員功勞金六
千圓の支出箇領したるものなりと東

と遊
リ

續聞遂に大阪裁判所に於て裁判沙汰となりしが、木村判事は双方に和解を勧め、双方が交渉中の處木村家全財産約二百萬圓内外なるが、其中十五萬圓内外を折半し作爲以下に分配し其餘は長岡喬氏の手にする事にして解決

● 荻田 工藤兩課長廣
令夫人を喪て以來久しく孤獨を
つてゐた總務局總務課長荻田、

はるばるしよ


曲乗飛行
 大坂にて舉行
 米國冒險飛行家チャレンスナイルス
 春場所大相撲は来る十四日
 春場所のりひかう
 鳳天錦
 西の伊勢の

氏は熊本の飛行を終り、十日來阪し機體の組立に着手し、十六、十七の三日間、大阪城、東練兵場にて毎日正午より數回飛行すると、同主權は日本及び天然再、活劇寫眞會社にて大阪歡迎飛行會を組織し、最、五回、最低二

右十組の取組をはがきに認
附す事▲勝負は總て協會發

宇都宮源氏
黒川千代

天蛇山兩
板橋湯平
宇都宮源氏

十幾の會費を徴收し其他一般人士の觀望の便をも圖る筈にて京都に於ても同様の計畫ありて(大阪局)

百二十六名

猩猩熱患者四

一等一人
二等一人
三等一人

者より順次等級を附し左の如く右十組の中既合せなき時

日▲はがきの表面には必ずヤザ

心はる
 京城
 本町
 女が
 多く死ぬ
 於ける
 大正三年
 長男
 質したるに
 年十二月
 中
 死に
 理由
 判明し
 家出の
 理由
 等二十人
 等二十人
 等二十人

[illegible][illegible]

終る
り手
創立
加藤
園を
藤

當座
の
印

延大の創立は二十四年九月に修典として午後一
より開校し、三月より修業開始あり由


▲落座 十二日の、落座し、
▲水主 中水主、
御所前、四段目、縁路、水主、
役所、の、加し、
▲主 主、
御所、大、二、三、女

銚子港
田

事
守を
遺氏
御成座
十二日葬り、衆令國全八共り

お膳邊の朝臣、雷三郎、見朝臣、本藏海神店
三原屋左衛門、井兼作左衛門（井左衛門）
區難太地下町助右衛門、若狭の甥長次（赤松）

足
目まふけんしやう



大相撲懸賞

海濱綏朝
川潮
對玉
馬手
洋山

り開振に付き左の勝負豫想を募集す

代理店

東京
城

櫻正堂
寶重

門閥
 川山門
 金の
 花
 浦
 九
 州
 濱山

力士の肩に○、引分に×、預りは△を
 の勝負附に據る事△最も多くの中したる

開通
 三王

電
印章
菓子
堂

晴れ一時曇り
 一月十二日
 十二時五十八分
 十二時五十八分

健天瓶五十粒（郵税八錢）各埠藥店に在り
 處方に基きし貴重の製煉にして●はや
 せ目●疲目其外眼病一切に驚べき効能
 小兒用大學目藥あり

醫學博士 古城憲治

立蕃釀造

多寶油

山邑京城支店
電話八四九番
振替附金京城七五番

御披露

五十二番
版木ゴム印並ニ
彫刻
守山安次郎
京城本町二丁目五十三番

○日
○月
五七
時四十八分

「内外各處に賞用せられ
効能最も卓越せるは本劑なり」

かめ
な
堂
録

商標

大坂北橋町丁目
大天堂藥房


大目町は帝國醫科大學醫院の處方に基きし出重の製煉にして、はやく目、星目、トラホームのばせ目、癢目、遠近視眼病一切に驚べき効能あり。5歳以下の小兒の爲別に小兒用大學目藥あり。

入院隨意 普通病室並隔離病室

院長 醫學博士 古城憲治

尿、便、血液、喀痰等臨床的検査の依頼に應ず（毎日五名を限り無料施療す）

銚子港 田中 立 蕃 釀 造



代理店 櫻正宗
發賣元

山邑 京城支店

電話 八四九五番
一 振替貯金東京七五番

開通御披露

電話五四二番

印章版木ゴム印並ニ
菓子型彫刻

、堂 守山安次郎

京城本町 丁五三

は

晴れ 曇り

一月十二日

十二月二十八日(土)

陽九十二度八分

陰九十度四分

〇〇日付

五七

時四十八分

陽九十二度八分

陰九十度四分

〇〇日付

五七

時四十八分

大正四年度貿易總額は三千二百二十五萬圓にして大正三年度に比し輸移出の増加輸移入の減退を見る

無人の資食を提集も昨年三月前後
 にて盡さるべけれど其後餘人に高
 の米食をなす中粟を求むれば滿洲
 の南下となるべきかと云ふ
 ●春川守備隊 寒格古 春川守備隊に
 於ては隊長井上少佐の指導の下に客
 年十二月三十日より本年一月七日に
 至り使務未明より鮮國の寒格古を巡
 行しありしが八日陸軍開始の日を卜し
 寒格古の終營及び本年度の積泊始を
 成津より移出せし生牛二百六十頭由

陸軍の大和田氏對北鮮滿洲の實業
 家に於て第一圖せる生牛移出旭組合の
 北鮮牛所理の管内に出張をなしたる
 旭組合代表者若田達氏は齋藤未見遊

せるが同氏の説に曰く北鮮牛第一回
 の内地移出は全然失敗に歸したる
 れが失敗の原因としては(第一)一回
 成津より移出せし生牛二百六十頭由

▲生牛移出有望 昨年十月北

實あり又た官民、學校生徒等數十

西五捕房に肉の目減等、に莫大の損
 を蒙りたる弊等に、對局一頭に常
 十三日、短の根柢を計上するの止
 なきに、至りたるを、計上之れを、精生
 して市街に、出す事を、指せしめ、城
 下に十、日間、前後にて、買取りたる、幼
 一頭が、二十四五圓に、取引行はれた
 事、明かなれば、も、數、賣、猪、賣、所、は、肉、牛
 外の、販賣を、許さるゝの、規定なるを、非
 ば、精、生、父、は、生、牛、さ、して、の、取、引、を、爲
 能はす、眼前に、有利なる、販路を見、な

●北鮮より

合は斯島内に之れを一律に施行する事となし、愈々舊曆二十九日より施され其以前に於て取引終了するものは本年一月十五日迄其の搬出を猶許し其後に於ては如何なる事情なるも嚴に搬出を禁止せり、之れが結果として咸北道地方の蒙る影響如何と見るに尤も咸北道北鄙地方は土地饒饒なるを以て其生産する農作物あるも嚴に搬出を禁止せり、之れが結果として咸北道地方の蒙る影響如何と見るに尤も咸北道北鄙地方は土地饒饒なるを以て其生産する農作物

に足らず其不足食料(主として粟)

港高麗九二等客
一男四名天題久吉河野榮太同安子。

に侵入して以來漸次其の販路擴張し遂に國境方面の僻陋地迄其の勢力を以て當局者が極力壓制物の増殖を計りたる爲め漸次其數を減じたるも一方昨年來蘭貨細米の咸北道に輸入して以來漸次其の販路擴張し遂に國境方面の僻陋地迄其の勢力

供給を仰ぎつゝあり故に其搬入船は餘からざりしも近年自給自作の方針を以て當局者が極力壓制物の増殖を計りたる爲め漸次其數を減じたるも一方昨年來蘭貨細米の咸北道に輸入して以來漸次其の販路擴張し遂に國境方面の僻陋地迄其の勢力

實際に拘らず歐神乃至名古屋地方の内移入は自然の趨勢として極めて有望視しつゝありと云ふ(元川)

連絡船上陸客
九日午前

輸入は著しく減少するに至れり

[illegible]

口
演

綱國忍びの花見
綱國公この男女の群々々く賑ひを御
覧せよと云はし、景御快に綱ア
忍ぶればまた別殿の樂みである、正木
圓ハッ綱「あれ（来るは何者ぞ
や）あれは其桶座御座いまして
綱桶座云ふは何物ぞや」願「あれ
は町人共の、極身分のない輩だ、死
を去いたしました時、あの箱へ屍體を
入れて、寺へ送りまして佛事を終へ
ますもので御座います。綱ア尸體な
らぬが、それでは何れも相分り
せぬで御座る」甚間に又向うから
桶の大きいのを負いて来る、アレレ
と云つて、一同の女子供が
ぎろてる内に其蓋を取りまして
から御重が出る、開けると重の中
にその御料理、イヤ汚穢い物か、死
思つたら、彼様な物が出た」とワコ
ノ唯し立てる、次で肥料が出る、
糞が出る、大海盛りが始まる、



●舊劇 旗本

黄銅六四
 帶地無代進皇
 買鐵二圓十錢で買へるとは原
 基盤の深さ幾のやうだが現に數年
 吳縣の格を以て取つて
 東京日本橋區本石町一丁目吳縣
 土庫金商店が最新流行新機高貴
 前記の馬鹿に授け置りしつゝ
 大川筋に勢で入根が生へ
 飛ぶ大川筋に勢で入根が生へ

世界のレコードをせし新派悲劇を充溢せるを以て

記念として二反の注文毎に一筋宛
奏南宮、西國製新絃狛狛二重片側
番地を無代で出すと言ふ一風幾つ
大安發賣はねものこそ損なけり
に地方の希望者は兩店ハガキで
て金品餘等を記し出ば両店親切に
代金引替送料を實費で返この事

一月八日
三月九日
四月十日
五月十一日
六月十二日
七月十三日
八月十四日
九月十五日
十月十六日
十一月十七日
十二月十八日

本電

めて非を悟りた
ルとの結姫を許
西奇談なり▲
おなじみの尾上

費
 金貳圓五拾錢(發賣)
 申込所
 治町店川吳股店
 町延
 吉野兄弟商會
 本
 町堀内商會
 町能平支店
 滿蒙虎
 東京

T

電話三二〇〇番
浪花館

明治三十四年
浪花館

浪花館

浪花館

万物興
利主一

電話二九一御成座
御成座
美人 全八場

七郎の
町高城

[illegible]

何
次

新派大非割日活のサロメ(狂人)
 飛車の名王可憐の女奴有爲の青年を教
 養する費用を與へて志高く數年の學問に精進す
 る月夜奔帝御上座の少女サロメ衣冠成道而も未
 に其計なるを得ずと折衝朝之る昔年錦帯威成りたる女奴自
 に要する知識より花紅銀幣亦一掃して日へる美人
 の醜陋や奈何と泰西の制度を日々に活人眞
 上の松野貴川延び合會同大士

1

泰西滑稽小説名劇特作
全四巻

マージヤ

泰西探偵大活劇

名優伊太利に有名なる彫刻家フレッド・マースの仲間の怪人「マンジャ」といふ如何なる者か當時頓名を有する銀山王イヴレナ

二十日より養神の特刊大盛況
泰西滑稽小説名劇特作
全五巻の雄々

天探ツロ

新派大活悲劇錄の曲全八尺四寸二二場
井木下、高部、五味大合圖、夢の曲如何なる
なるか今且に百はす只だ鮮地曲は活動寫
外のレゾラを破し十五日間大入演見
せし種悲劇人の現以上の劇なる事實な
す演説に外面を飾らず觀客様に誠實に内容
を發せざるを以て満足とする處なり

最長劇

道に失ひて、
 家に來りて、
 師に教へら
 れ、又よそに
 行くと、思ひ
 出され、
 妻に逢ひて、
 大に喜ばれ、
 終に歸りて、
 家に入る。

ひるふせ

英國クロバトキン將軍原著 日本大井包高脚書
 後刷吃又平名 斷仇討全三卷八十摺
潮蒙處分論 定價金一圓
 郵稅本社負擔
 京城日曜代理部 振替貯金京城三〇〇〇

彼 迷 神 湯 又 氣 症 力 さ の 禮 不 幸 人 命

[illegible]

各宮家一御用品

學者の創製

したる

生れつき
色が白い
やうな白
さふ附く

美顔白粉

各宮家御用
女流美顔術大家
マリールウ井ズ嬢

日本一の優良白粉なりとて
各宮家を始め奉り、華族方
上流の御家庭に盛んに推奨
せられつゝある名譽の白粉

年の始先づ皆様の事に

就て驚かれますのは、皆様のお化粧用の白粉が、去年お用ひの白粉とは異なつた事で御座います。今年は大分、多少とも現今の流行を受けられ、又は現代の智識をおもちの方は、婦人全部、一博士三博士の創製した、科学的に完全な美顔白粉をお用ひになつて、従来の化粧の感からしい白さで飾つた、極く品のよい、生れつき色の白いやうな化粧をなさつて居ります。皆様のお化粧用白粉は、今年から一歩を進められました。皆様は、美顔白粉をお用ひになるにつけても、學者の知識と研究といふ事をお思ひ下さい。桃谷研究試験部の學者は、常に最新の如く活動して、皆様のお化粧用白粉を刷新して居りますのです。

桃谷研究試験部の一の部



桃谷研究試験部

顧問 藥學博士 丹波敬三氏
主任 藥學博士 山本淳二氏
主任 藥學博士 桃谷幹次郎
主任 藥學博士 小磯勝次郎
主任 藥學博士 齋藤銳助

那支内閣出現期
那紙は中華帝國は既に正式に成
付内閣の出現は早くも四月頃ならん
制定公布後之れに根據すべきものに

銃四萬三千挺機關砲八十三門速射砲八十四門彈藥五百五十萬發爆彈六百磅又黑色火藥三千磅あり而して南統の軍糧は充分に養ひ

十挺大砲約十門を製造すべし其他各

國軍艦船常千歳の浦頭に航行の任につきては其の内容は極めて秘密に居れるが、探聞する處によれば、國より日本に向け送附する多量の金銀塊を輸送したるものにして、金銀塊

國より日本に向け送附する多量の金銀塊を輸送したるものにして金銀塊を輸送せらるゝな
 國より多量の金銀塊を輸送せらるゝな
 らんと而して露國大藏省官吏六名ハ
 露國大藏省官吏六名ハ

國より多量の金銀塊輸送せらるゝならんと而して露國大藏省官吏六名ハ

